

私は1994年の12月に米国に赴任してから2010年の4月に米国の仕事を離れるまで15年の間米国のITビジネスに関わってきた。その間、最初の5年は大手IT企業NECの米国法人で、次の10年は自分の会社(株)ケイアンドアイインターナショナルで仕事をしてきたが、その時代はIBMを中心とするメインフレームが衰退し、サーバーやパソコンのオープンシステムがシステム構築の主流になった時代であった。そしてMicrosoft、HP、Sun、Apple、CISCO、Oracle等の第一世代のベンチャー企業がその地位を確固たるものにしていた。次に1990年代にインターネットの技術が誕生し、90年代半ば以降になると関連する多くの新しいベンチャー企業が誕生した。当社は2000年1月に設立され、New Yorkをオフィスにして(後半4年は東京オフィスを併設)、米国ベンチャー企業の日本ビジネス開拓、ソフトウェアの開発請負、エンジニアの派遣、米国発ITレポートの発行等を行ってきたが、米国ベンチャー企業とは以下の企業と仕事をした。

(1) Nexidia Inc. (Atlanta): 音声認識技術の会社で9.11テロ事件以降米国政府のセキュリティ開発予算が増強されたが、その恩恵を受け、急成長していた企業で10カ国以上の言語の音声認識が電話傍受に適用された。当時はこの技術を民需(コンタクトセンター)に転用するため新しい開発を始めていた。当社が手掛けた最初のベンチャー企業で、幸いにもNECの交換機グループが日本のディストリビュータになってくれた。

(2) iWay Software Inc. (New York): 異種システム間の結合アダプタ(IBMやSAPとの接続)とそれらを統合管理するソリューションベンダであり、オーナー会社で、当時すでにマンハッタンにオフィスを構え、700人を超える中堅企業であった。日本では日立やNECがカスタマーになっていた。

(3) CAMINUS Corporation (New York): 電力会社のトータルソリューションで、欧米では電力業界の自由化が進んでいて、発電会社、送電会社、販売会社が完全に独立運営されている。そして市場が形成され、電力は発電会社と販売会社の間で市場取引され(大口顧客への直接販売もあるが)、取引された電力は送電会社の送電線を経由して数分単位に行き先制御(パイプライン制御)されながら販売会社や顧客に送電される。CAMINUSは大手のベンダで、NECがJVを作った時の相手側のEVPだった人が社長になっていたため、そのコネで日本向けビジネス開拓を担当した。

当時日本でも電力自由化の機運が高まり、三菱商事(傘下に発電会社を持つ)が関心を持ってくれたが、その時には本格的な自由化が見送られ、日本での導入には至らなかった。

(4) Media Publisher Inc. (California Berkley): マルチストリーミングの技術で映像を配布するビデオ配信ソリューションで企業内情報管理システム(役員やスタッフか社員や外部への情報伝達や教育)を構築する。NECとSony、CTCにアプローチしたが、ビデオ配信による情報管理は日本では時期尚早ということで導入には至らなかった。

(5) Time Cruiser Computing Corporation (New Jersey): インターネットを利用して学校の管理(授業スケジュールの配布や宿題のやりとり、授業料支払等)を行うeCampusソリューション。NECやベネッセに紹介したがやはり日本では

時期尚早であった。

(6) Yellow Dragon Software Inc. (Canada Vancouver): 当時はeBusiness(B to B EC (electronic commerce))が大ブームで、国連(UN/CEFACT)で共通仕様ebXMLが開発されていた。そのチームが独立して立ち上げた会社で、XMLベースのeBusiness platformを開発し、前述のiWay SoftwareがOEMでセールスしていた。NECやNTTデータ、三菱電機に紹介したが、導入には至らなかった。

以上の企業に加えて、スタートアップやearly stageの企業まで色々なステージのベンチャー企業に関わってきた。米国の大学ではNo.1卒業生はベンチャーを作り、No.2,3はベンチャーのマネジメントで働くと言われているが、そのような優秀な人達と仕事を通して熱い交流が出来たことは何にも増して貴重な経験であった。

15年の米国との関わりの内、最初の4年はCaliforniaを、次の11年はNew Yorkを拠点にしていたが、最後に仕事を離れて米国での生活について触れてみたい。CaliforniaではオフィスはSan Jose(シリコンバレーの中心)、住まいはCupertino(Appleの本社がある)であった。住まいは、ロータリーに10数軒の家が立ち並び、1つの小さなコミュニティを作っていて多人種の人が仲良く生活していた。移民も多く、英語教育も充実している。公立の短大のコミュニティカレッジには高校卒業の資格があれば誰でも入学でき、好きな科目を選択できる。カレッジはESL(English Secondary Language, 英語を第二言語とする人たち)コースと一般コースに分かれ、ESLを卒業すれば何時でも一般コースに移れる。このように開放的なところがCaliforniaの良さである。

次にNew Yorkに移ったが、オフィスはマンハッタン、家はマンハッタンやNew Jerseyでアパート住まいのため周りの人との交流は余り持てなかった。このためご近所付き合いは日本人同士になりがちでアメリカ人との交流は仕事中心にならざるを得なかったが、仕事も皆が忙しく競争しているようで息が抜けなかった。しかしこれがNew Yorkの良さかも知れない。



オフィスから見た
Empire State Building



New Jersey アパートから見た
old WTC

*いしづろ-いさお JECK会員(横浜市旭区在住) 現職:(株)ケイアンドアイインターナショナル代表取締役 前歴:NEC勤務、NEC Systems Inc. Vice President 専門分野:IT JICA以外の任地:アメリカ